



ADULT ONLY

R18

CONTENTS INCLUDE

A

N

G

E

L

M

A

I

D

F

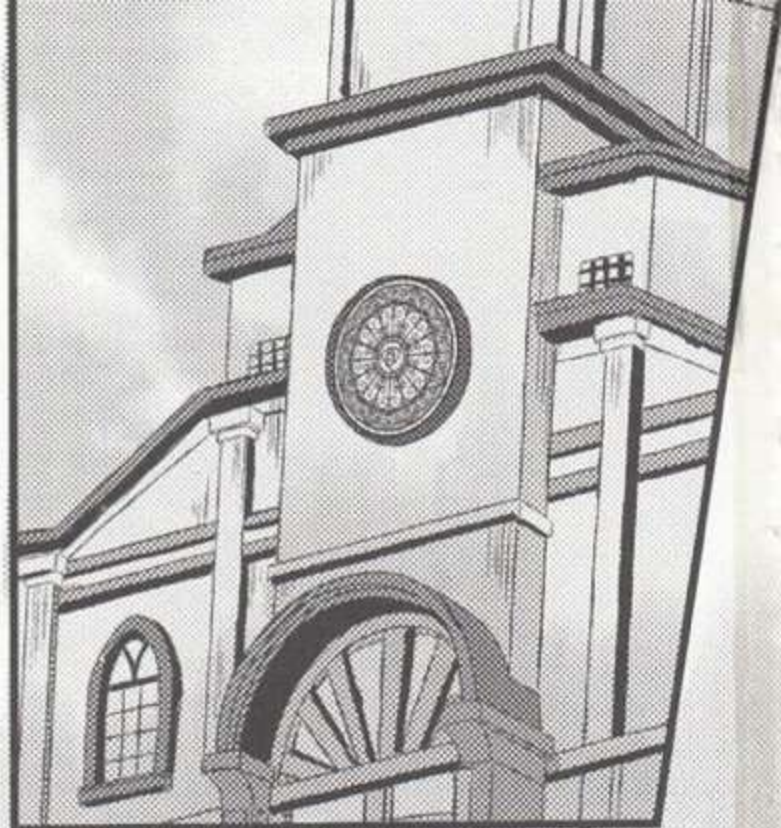
N

×11

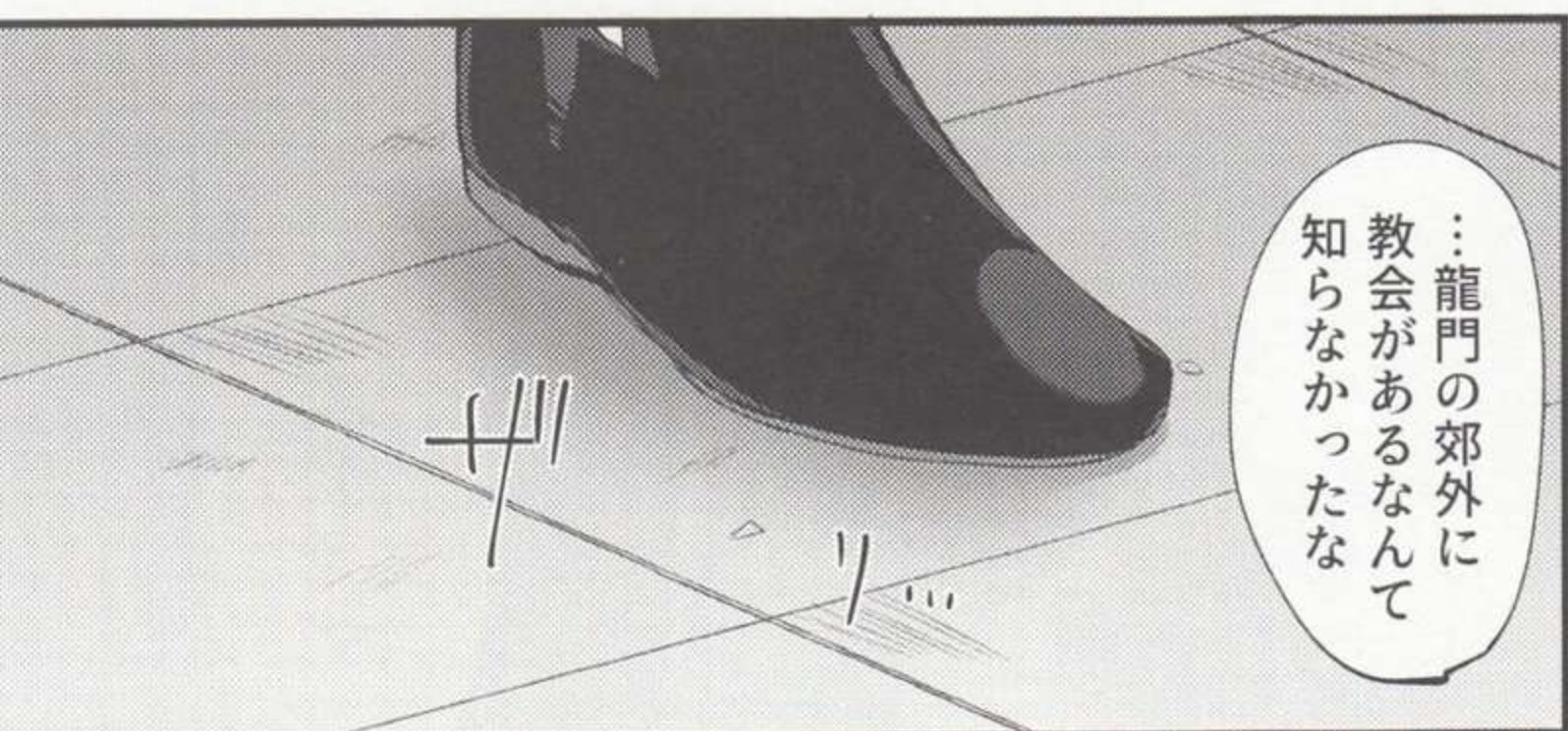


PRESENTS BY UMISU'S





：龍門の郊外に  
教会があるなんて  
知らなかったな



そう、昔ラテラーノの  
熱心な宣教師が教えを  
広めるために建てたらしいよ

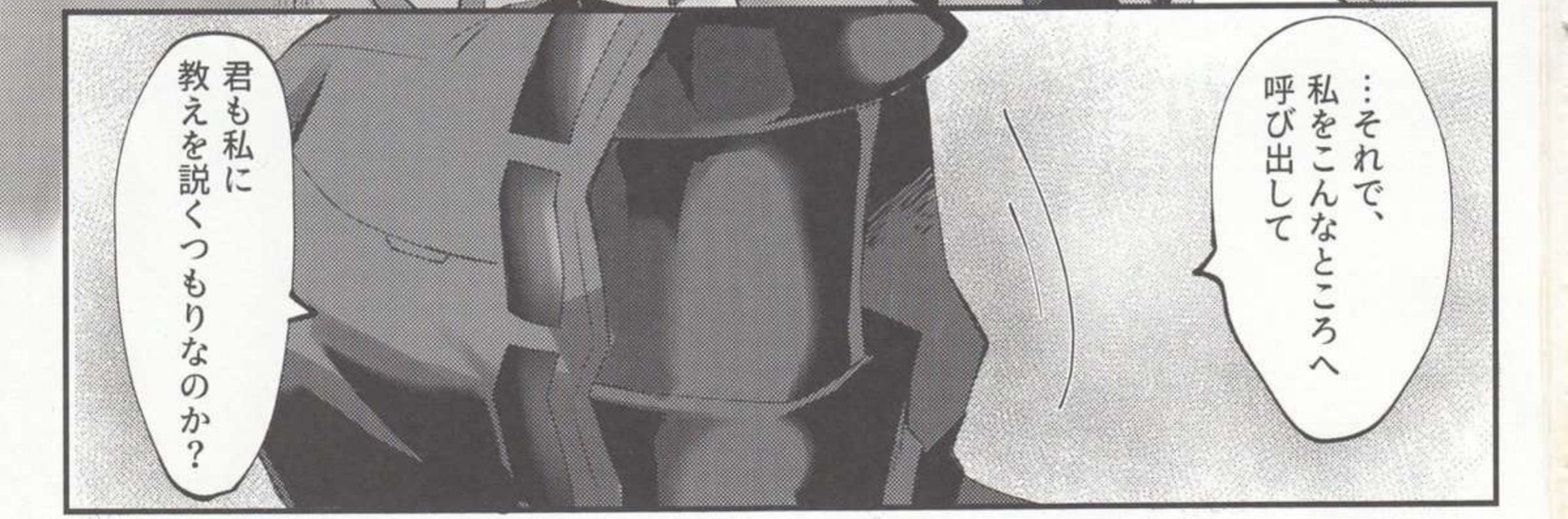
へえ…

ま、ラテラーノの  
お堅い教えは広まりにくくて  
すぐ廃れたみたいだけど

ワネウス

：それで、  
私をこんなところへ  
呼び出して

君も私に  
教えを説くつもりなのか？





モステイマ





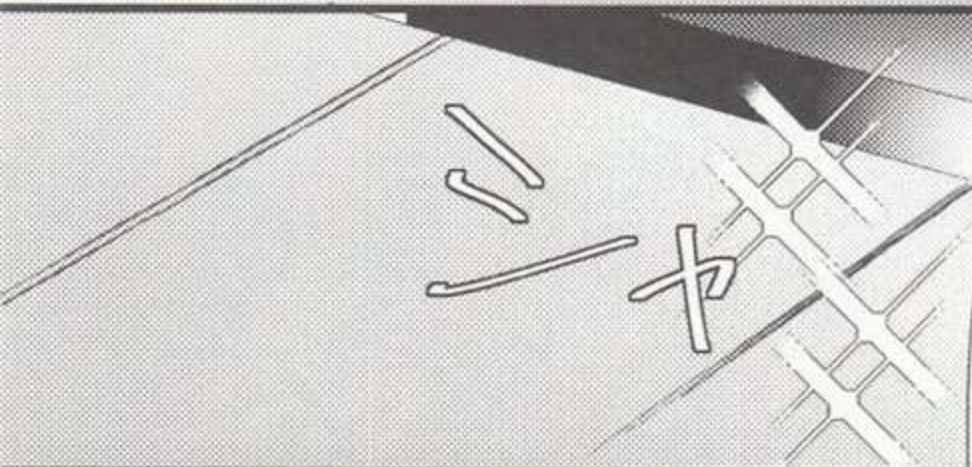


ウズッ

し  
じゃあ、  
なんで…

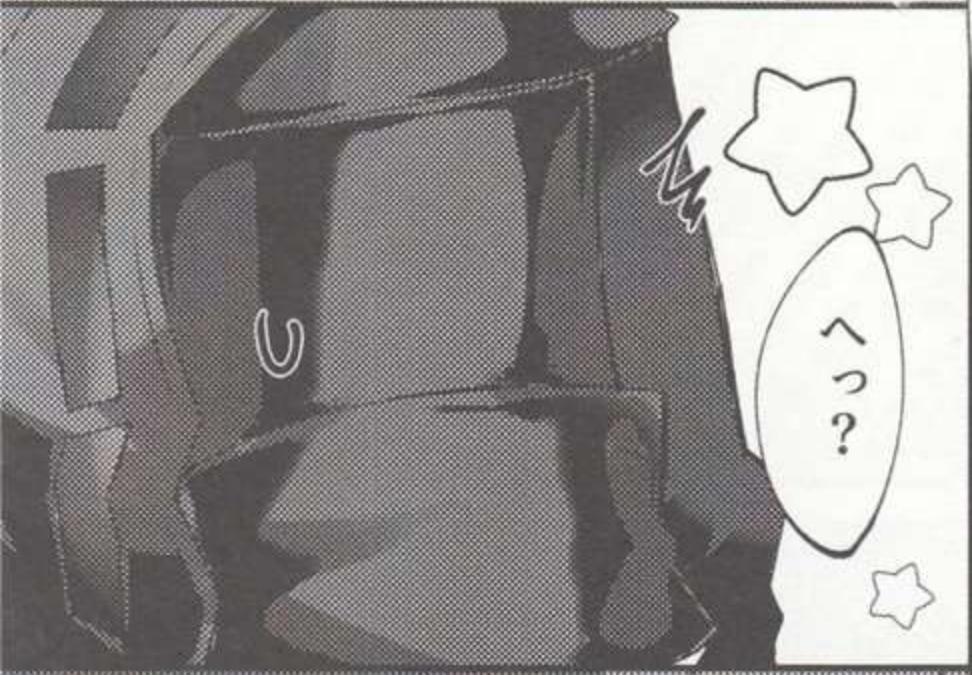


まさか！  
私がそんな  
信心深い人間じゃないことは  
ドクターも知ってるでしょ



ハッ  
ヤ

私のこの格好を見た時…  
どう思った？



へっ？

ねえ、ドクター



そ…そりゃ  
似合ってるし…  
綺麗だなんて…







…本当に？

え？

——ッ!?



…ドクター、  
私は知ってるよ

本当の君は  
そんなお上品じゃない

君は私を見て…



この厳かな礼服を着た  
堕天使をめちゃくちゃに  
汚したい！

そう思ったんだよね？

な…っ!?

ね、ドクター…

な、  
何を…っ

する。







カリッ♡  
カリッ♡  
ズグッ

ズグッ

ズグッ♡♡♡

これ..  
これが  
答えじゃないのかい？

ね..  
ドクター？

このままじゃ...

君のしたいこと..  
してあげようか？

墮とされ...っ





おやドクター…  
もうこんな  
しちやって…

っ…!



こんな神聖な場所で  
勃起させちゃう  
ドクターには

オシオキが  
必要な?



あはっ  
ガッチガチだねえ

うっ…  
モステイ…

足…  
すべすべ…

ほらっ

うああっ!?





自分はこの場所で  
堕天使に欲情して

オチンチンを  
いじめられて興奮してる  
変態です…ってね

モス、

ほらドクター、  
懺悔しなよ？



まずい…っ  
気持ちいい…っ

モステイマに…っ  
足でこんなこと  
されて…っ

はま

どっ

は、

ん



気持ちよさそうだね  
ドクター♥

ろろ…♡





待っ  
モステイマッ  
本当に…っ

もう出るッ

おっと…

もう  
出ちゃったのかい？

あーあ、  
服まで汚しちゃって…

うめ…っ







はー

わ

はー

ス

なのにまだ  
こんな大きいままなんだ？



うっ…

ピク



はー

れ

モステイマが…  
跪いて  
私を舐めて…

あ

ぢゃる

今度は下から…



ぢゃる

はっ





モス…  
テイマ…っ♡  
うあっ…♡



ドクター…  
気持ちよさそ…♡

かわいい…♡

は…

ぬ…





聞き分けのない子だなあ…

まだ反省し足りないみたいだね…



…ドクター



そんな悪しいドクターは

私が直々に反省させてあげないとね…？

か

ん

ん

ん

ん

はま

はま

しゅる





こおお、ア  
ア

びくっ♡♡



こおお、ア  
ア

カタい...♡

びくっ♡

びくっ

はっ♡  
ドクターの...♡

く...♡

びくっ♡

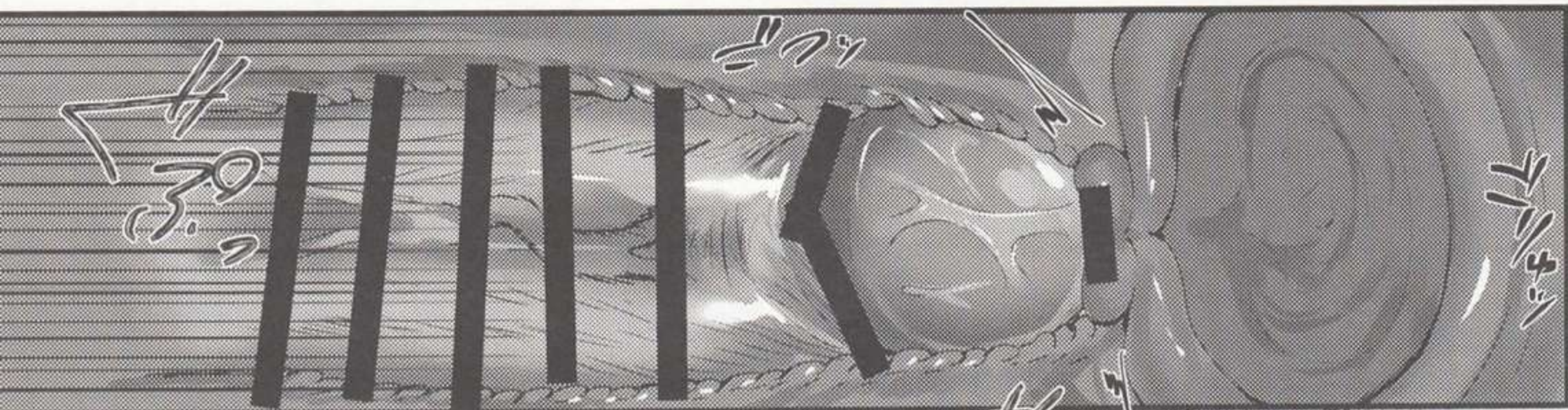
はっ♡



びくっ♡

はっ♡













ユウウウウウウ

どくた...  
先...っ♡

カリッ♡  
カリッ♡

ゴウゴウ

カリッ♡

ムンムン♡



モステイマ...っ  
モステイマ...っ

ほろろっ

んい♡

ふい♡

キーン♡  
キーン♡

そんな風に名前...  
呼ばれると...っ♡

きゅん♡



やば...ッ  
出る...ッ

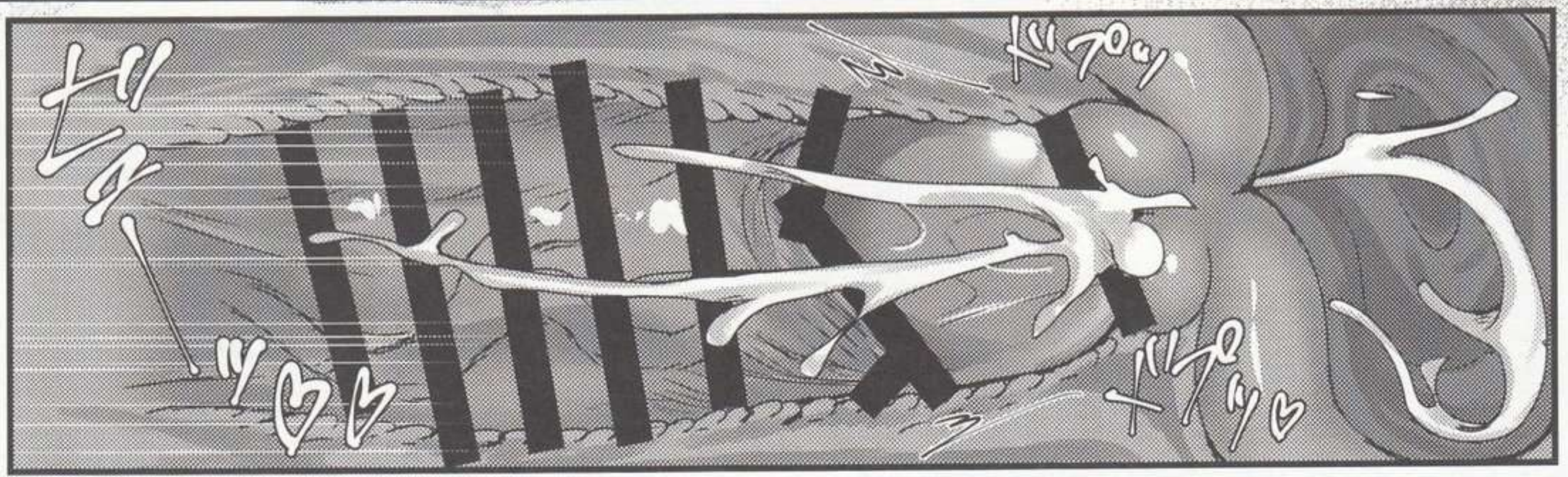
はあ

はあ

ふい♡

はあ









ちよっ  
ドクター…ッ!?

待っ…!

モステイマ…っ

足りない…



ちよっ  
モステイマ♡

はっ

はっ









ちゅっ♡  
ちゅっ♡  
ちゅっ♡  
ちゅっ♡  
ちゅっ♡

ちゅっ♡  
ちゅっ♡  
ちゅっ♡  
ちゅっ♡  
ちゅっ♡

あっ...  
ぬっ♡  
ぬっ♡  
ぬっ♡  
ぬっ♡

ちゅっ♡  
ちゅっ♡  
ちゅっ♡  
ちゅっ♡  
ちゅっ♡

ちゅっ♡  
ちゅっ♡  
ちゅっ♡  
ちゅっ♡  
ちゅっ♡

ちゅっ♡  
ちゅっ♡  
ちゅっ♡  
ちゅっ♡  
ちゅっ♡





ドクター！  
いつもより  
乱暴で……っ♡

あーっ♡

子ん♡

おん♡

あーっ♡

あーっ♡



本気で私のこと  
孕ませたいわ……っ♡

おん♡

あーっ♡

本気だ……♡  
ドクター！……♡

あーっ♡

おん♡

あーっ♡



ドクター……





こんな場所で  
堕天使に本気の  
種付けセックスなんて…

君はロドスの  
ドクター失格だな…♡

は—♡

は—♡

あ

あ♡



…



ッ…!!





そこっ  
今はダメ…っ♡

あっ♡  
どくたあっ♡









どくたあつ♡

♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡

締め付た...  
すい...♡

♡...♡

♡♡...♡

♡♡...♡

は♡





一番奥にキて…っ



グク







なんか…  
あんなことして、  
バチが当たりそうだな…

何、ドクター  
私にあんなことして  
逃げるつもり？

えっ!?!  
いいやっ  
そんなこと…

…まあ、  
逃す気なんて  
ないんだけどね

…え？

ん！、  
なんでも？

ウツ…

ウツ…







モステイマは悩んでいた。

「うーん……どうすればドクターのペニスがもつと勃起するんだろ……」

そう思うに至ったのは、一ヶ月ほど前のセックスの時の話。

「……あれ……うう……上手く入らない……」

「元気ないみたいだね？ドクター」

「そんな事言わないでくれ……」

「仕方ないね、今日はお口で済ませよっか」

「……ああ」

いざ挿入するとなった時に、ドクターの肉棒が萎れてしまうのだ。原因は自分のせい……？とも思ってはいるが、実際のところセックスに義務感を覚えてしまい、あまり気分が乗らないというのが彼女の正直な気持ちであった。

決してドクターに冷めた訳でも、嫌いになった訳でもない。だが、恋人の感情が分からないほど彼も朴念仁ではなく。故にその態度が見抜かれているのだろうと、少し罪悪感に苛まれる。

そんな彼女は今日もドクターとセックスをする訳だが、何かと刺激が欲しいと思い、ネットサーフィンを始める。「……どれどれ、マンネリ気味のカップルに実践してほしいセックス

ね。

へえ……なんだか色々あるみたい」

玩具を使ったプレイや、媚薬を使った激しいプレイなどがそこには書き込まれていた。

「ふーん……でも、実践済みだしね」

そう呟きながらページをスクロールさせていく。

「……おや？ふふふ……」

不敵な笑みを浮かべたかと思うと、モステイマは自室にある衣装に目を向ける。

「こういうのも、悪くないかもしれないね」

着替えを済ませると、彼女は足早にドクターのいる執務室へと向かったのであった。

午前一時、執務室。

「うあく……も、もう疲れた……」

今日も書類の整理に追われ、文字通りヘトヘトになっていたドクターがそこに居た。

「……さて、と」

プライベートモードのブラウザを立ち上げ、ネットサーフィンを始める。

「魅力的な男になるためのセックステクニック六選！」

目が痛くなりそうな程にピンク色の主張が激しいそのサイトを眺める。

「たまには後背位や、様々な体位を試してみよう……か」

基本的に書かれているのは、どのサイトにも変わらない。今見ているサイトも、どれ程見た事だろうか……アクセス回数を数える事さえ億劫になるぐらいかもしれない。



だが、それ程に妙にドクターの心に刺さるのは、自身に思い当たるフシがあるため。

「モステイマ……好きだっ……！」

「あっ……んう……好きっ……！」

びゅるるるっ……どびゅっ……！

「……ふう……」

「ふふ、妙に落ち着いてるね？」

「……いや、そんなことは無いさ」

月に一回という頻度……決して多いとはいえない回数ではあるが、プレイ内容はほとんど単調なものだったと思う。

キスをして、お互いに愛撫を繰り返して、正常位のまま最後まで……

モステイマには申し訳ないと思っただけだが、自身の体力の無さが露呈してしまうのを恐れ、なるべく楽なセックスへとシフトしていた結果、お互いに満足のいかないセックスになっていた。

「……こんなものが効くのだろうか」

引き出しを開けると、いかがわしい精力剤が現れた。

「まあ、飲まないよりはマシ……と思ってみよう」

蓋を開け、一気に飲む。

理性回復剤にも似たような、何とも言えないエネルギーギッシュな味。

「……後は彼女を待つだけ、か」

テクニックはある程度叩き込んだ。今度こそ、モステイマの事をしっかりと愛してあげたい。

「ドクター、いつもお疲れ様だね」

「モステイ、マ……！？」

そこに来たのは、厳かな礼服を身にまとったモステイマだった。

「この服を見せるのは初めてな気がするけど、どうかな？」

「あ、ああ……凄く……」

美しいという言葉が、喉につかえたまま出てこない。

そこに理由を見出すことなど、出来る筈もなく。

「ドクター」

「モステイマ……」

「……？あれ、身体が動かない……」

「ちよつとだけアーツを使ったんだ、これでもう君は私の好きにされるのを受け入れるしかないって事」

「わっ……」

身体が自由が効かないまま、彼女に押し倒され、ズボンと下着を脱がされてしまう。

「ドクター、ローションガーゼって知ってる？」

「へ……？何だい、それは」

「ふふ、それならお楽しみが増えたようだね」

どこから持ち出してきたのか、ドクターの目の前でガーゼとローションを取り出すと、それらを馴染ませていく。

「そして、これをドクターのおちんちんに付けてあげて……っつと」

「ひうっ……冷たっ」

ローション塗れのガーゼに己の屹立を包み込まれ、少し身体を震わせる。



「いくよ？」

「あ、ああ」

ずる…ぬるっ…

「うあっ…あっ…！」

今までにない強烈な快楽がドクターを襲う。

「気持ちよさそうだね、ドクター」

「んっ…モステイマ、やめっ…ああっ…！」

足から頭に駆け巡る快楽の電流が、彼の理性を溶かしていく。

融解した理性の欠片は、モステイマの劣情へと書きかわり。

布地で擦られた屹立は、今にも決壊しそうな程にびくびくと震えている。

「出していいんだよ？ドクター」

愛する彼女に耳元で囁かれ、限界を迎えた。

「射精る…うああっ…！」

びゆるるるっ…どびゅっ…！びゅーっ…！

ガーゼはローションとドクターの白濁に塗れ、本来の用途を完全に失っていた。

「びっくりしたよ、凄く気持ちよさそうだったね？」

「…ああ」

長い射精の後も、ドクターの屹立はまだ衰えを知らぬままで。

「ドクターのこんな姿見てたら、私もすっかり気分が高まっちゃった」

目の前でゆっくりと衣服をたくしあげ、下着も身につけぬままの自身のところどころの秘部を見せつける。

「君は、自分が思ってる以上に淫乱な事を理解した方がいい」

「ふふ、そうみたいだね」

ドクターの動きを自由にし、少し顔を紅くしながらたくしあげた

ままでいるモステイマ。

「モステイマ、お尻を突き出してくれ」

「わかったよ、ドクター」

ドクターの命令通り、お尻を突き出す彼女。

腰をくねらせて誘惑し、挑発する。

「ドクター」

「なんだ？」

「私の事を、もっと染め上げて？」

「…っ…！」

ずぶんっ…ごっつちゅん！！

「うああっ…あっ…！」

いつもと違う乱暴な挿入に、驚きつつも軽く甘イキするモステイマ。

「モステイマが、悪いんだからなっ…！」

どちゅっどちゅっ、ぱちゅんぱちゅん…！！

「あっ、それだめ…えっ…！おかしくなるっ…！」

今まで知らなかったドクターの加虐心に、為す術なく染められていく。

「モステイマっ、モステイマっ…！」

「うあっ…ああんっ…！あっあっ…！」

まるでオナホのように激しく打ちつけられ、ただ身体を震わせて喘ぐ事しかできず…

「…射精…るっ…！」

びゆるるるっ…！どびゆるるるるっ…！！

「っ…！」

子宮の中に流れ込むドクターの乱暴な愛を、しっかりと受け止める。



だが、それでも屹立の収まる気配は無い。

「すまない……モステイマ、まだ満足出来ないみたいだ」

「はーっ……はーっ……あ、う……」

抜いたかと思えば、今度は種付けプレスへと体位を変える。

「あっ……それ、奥までっ……」

どちゅっどちゅっどちゅっ……！

「あっあっあっ……！ドクターあっ……！」

男にのしかかられ、逃げられる女などいる訳もなく。

モステイマもまた、ドクターの激しい愛情表現に包まれ、溺れて

いく。

「このっ……淫乱堕天使めっ……」

「ひああっ……言わない……でっ……」

身体の外も、中も愛され、染められて……

「あっ、またっ……イ……くっ……！」

「私もっ……また限界だっ……！」

「好き……んふ、れろれろ……」

ドクターの耳を舐め、射精を促す。

「好きっ……あっ……んんっ……！」

「どく……たあっ……！……！」

どぶっ……びゆるるっ……びゅーっ……

「はあ……んあ……」

「まだ、まだ足りない……」

「ドクターっ……」

「ドクター」

今度は、もう少し控えめに……ね」

「……わかった」

「でも、嬉しかったよ」

「そうか」

「好きだよ、ドクター」

「私も、好きだ……モステイマ」

ドキドキの夜は明け、ほんのり甘い一日はまだ始まったばかりだ。

何度も、何度も、モステイマはドクターに抱かれた。


結局、次の日の昼まで二人は愛を確かめあっていたのだった。




## あとがき

飴崎ばにらです。  
本を手にとっていただきありがとうございます。  
今回は魑魅払いのコーデがテーマとなっています。  
ものコーデ2つ目まだかなあ…

漫画担当 飴崎ばにら

 @789uz


 ID=737847



稲沢みんとです、突然ですが問題のコーナーです  
稲沢ってどこの地名でしょうか？  
わかった人はえらい(?)  
なんやかんやで本も4冊目、コミケ参加は3回目、  
頑張ってます  
ではまた！

小説担当 稲沢みんと

 @Inzwmnt

 ID=95685533

## Angel Maiden

発行日：2023年12月30日(C103)  
発行元：はいびすかす(飴崎ばにら・稲沢みんと)  
hbc.bowl22@gmail.com

印刷：株式会社栄光さま

※本の無断転載・複製・アップロードを固く禁じます。